

科目名	学習・言語心理学			ナンバリング	PSY232	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	末次晃	担当教員					

授業の概要	本講義では、(1)ヒトの行動が変化する過程である学習と(2)言語の習得に関する機序について解説する。学習領域では、古典的、道具的条件付けに関する諸現象と問題、および学習心理学の理論的背景について理解する。言語については、言語に関する諸理論、語彙の獲得過程、文法能力の発達、言語の生物学的基盤、そして言語の障害について理解する。						
到達目標	1. 二つの条件づけ(古典的、道具的)について、形成手続きを含めて説明できる。 2. 条件づけの諸現象を列挙し、それらを説明することができる。 3. 条件付けを日常場面の問題行動に当てはめて考えること、および問題行動の除去の方法を考えることができる。 4. 言語心理学の理論と研究について説明することができる。 5. 言語の習得について発達過程にそって説明することができる。 6. 言語の障害について例を挙げて説明することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	事前に概論書に目を通し、内容間の関係を整理しておく。その上で受講すると理解しやすい。研究者の名前とキーワードをセットにして記憶しておくことを勧める。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 代表的な学習理論を、代表的な研究者の名前とともに列挙できる。 2. 2つの条件付けの手続きと主な特徴について述べるができる。 3. 言語の4領域について、具体例を挙げながら述べるができる。 4. 言語発達の特徴を列挙することができる。 5. 言語機能の障害を列挙することができる。	1. 代表的な学習理論を、代表的な研究者の名前とともに、違いを対比しながら説明できる。 2. 2つの条件付けの手続きと主な特徴について、違いを明らかにしながら述べるができる。 3. 言語の4領域について、具体例を挙げながら述べるができる。 4. 言語発達の特徴について、発達段階と結びつけて、述べることができる。 5. 言語機能の障害について、損傷部位の名前と位置を踏まえて、症状の特徴を述べることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○					50%
宿題・授業外レポート	○	○					50%
授業態度・授業への参加							欠席の場合、減点することもある。

課題、評価のフィードバック	提出されたレポート課題を添削、コメントを付けて返却することで、フィードバックする。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	学習とは何か	心理学における「学習」の定義、また、学習心理学の歴史的変遷について概説する。	
	第2回	古典的条件付け1	図式を使って古典的条件づけが形成されるまでの手続きについて解説する。	
	第3回	古典的条件付け2	古典的条件付けの諸現象(消去、自然回復、高次条件づけなど)を解説する。	
	第4回	道具的条件付け1	ソーンダイクの試行錯誤学習、効果の法則、道具的条件づけ、について基本的な用語や現象などを解説する。	
	第5回	道具的条件付け2	嫌悪刺激、逃避学習、回避学習や学習性無力感、迷信行動などを解説する。	
	第6回	学習の諸理論 とその問題	S-R説、S-S説、レスコーラ・ワグナーモデルなどの学習理論について、それぞれの問題点を指摘しながら解説する。	
	第7回	社会的学習	模倣学習、観察学習について概観し、その後の認知理論への展開まで解説する。	
	第8回	まとめ1	第1回から7回までの講義内容について、各回のキーワードから、それぞれの内容について簡潔に振り返る。	
	第9回	心理学における言語研究	言語研究の4領域、代表的な研究者とその研究、推論や文化との関連について説明する。	
	第10回	文の理解	単語の認知、語の意味と概念、ガーデンパス文、メタ認知など文章理解に関する認知心理学的研究を紹介する。	
	第11回	言語と思考	言語相対仮説など、思考と言語との関係に関する認知心理学的研究を紹介する。	
	第12回	言語発達1	言語前期の言語発達について、共同注意、構音、喃語の出現、音声知覚の発達などの側面について説明する。	
	第13回	言語発達2	語彙の発達、文法発達、構音の発達、語用、会話の発達などの側面について説明する。	
	第14回	言語の神経学的基礎と障害	言語の神経学的基礎について解説するとともに、失語、読字障害、失書など神経心理学的な言語機能の障害について説明する。	
	第15回	まとめ2	第9回から15回までの講義内容について、各回のキーワードから、それぞれの内容について簡潔に振り返る。	
	試験	実施しない。		
授業の進め方		講義形式で進める。		
授業外学習の指示		シラバスを参照し、キーワードについて事前に調べる(40分)。授業内容を復習しまとめるとともに、理解が不足している点について自分で調べる(50分) (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書	適宜、講義の中で紹介する。
参考URLなど	特になし。
その他	